

【事業に関する事項】 …… 詳細は機関誌『連珠世界』各号の記事参照

2023年度は、新型コロナウイルスの影響が薄くなり、コロナ前の活動にほぼ戻ったのは嬉しいことでした。しかしながら、元理事長であった三森正男九段が6月に、永年連珠社総裁を務めていただいた津島雄二総裁が10月に、亡くなられるという残念な出来事が続きました。三森九段は第1期挑戦手合いに出場した経歴を持ちますが、そこから半世紀以上連珠界にご尽力いただいたことは感謝に堪えません。遺志を継いで連珠の普及に今後力を入れたいと思います。津島総裁の後継として新総裁には河村建夫副総裁に、副総裁には古川俊治参議院議員に就任頂きました。

連珠社の最大の活動である23年度のA級リーグは場所を新たに国民生活センター相模原研修所に移し、例年通りの形で行われました。結果は岡部九段が見事15年ぶりに優勝し、神谷名人への挑戦権を得ました。今回場所が神奈川に変わったことにより、観戦者が増え、Web中継も行ったことからアピールもできたのではないかと思います。挑戦手合いについては、神谷名人が貫録を發揮し、3勝無敗で見事防衛を果たしました。連珠社活動のもう一つの柱である連珠世界の発行も、遅滞なく毎号発行することができ、関係者の皆様には改めて感謝申し上げる次第です。

世界に目を向けると、世界戦はまだ開催できませんでしたが、24年度はチーム戦を中国で開催することになり、今後また大会が復活していくものと思われまます。懸案であった開局規定についても、RIF中央委員会が開催され、タラグチ10への移行が正式に決定しました。日本においても珠王戦で初めて採用しています。

コロナ禍にあっては直接の対局はなかなか進みませんでしたが、やはり連珠の魅力は顔を合わせた実戦です。普及推進委員会の活動も活発化し、東京都江東区にある川南小学校での連珠指導も定着化しております。また、連珠の普及資料として連珠ドリルも数冊製本化しており、連珠普及の活動も活発化しております。五目クエストからの級位認定、初段申請も引き続き寄せられており、実戦とネットの両面で連珠が広がっていることを実感しています。引き続き皆様のご協力をお願いしたいと思います。

以上の事項や各種の事業活動については、機関誌『連珠世界』に毎号いろいろな角度から詳報されています。

【総会に関する事項】

(1) 定時会員総会

- ・2023年5月28日(日)13:30~15:10 於：江東区文化センター
- ・出席会員数70名(うち委任状60名、会員総数103名、出席率68%)
- ・議長には河村典彦氏が選ばれ、書記に河村典彦氏、岡部寛氏、林昭一氏の3名を指名した。定款第21条に従い議事録署名人には議長本人の他、岡部氏・林氏の2名を推薦し、満場一致で承認された。
- ・2022年度の事業報告について、議決承認された事業報告文を河村理事長が簡単に説明した。
- ・2022年度の財務諸表等について、辻監事より処理が適切であったことが報告され、議案書通り賛成多数で承認された。
- ・2023年度事業計画と収支予算案について内容を河村理事長が簡単に説明した。
- ・役員候補者、及び組織・人事体制、審議承認について評決され、議案書通り賛成多数で承認された。この結果、新たに宮本俊寿氏が理事となった。
- ・世界戦へのタラグチ10導入について議論が行われ、議決上は賛成が過半数を占めたが、日本としてどういう対応を取るかについては第2回理事会で議論することとした。
- ・普及に関する検討が議論され、会員との間で活発な意見交換を行った。
- ・議事録を全正会員(特別会員・家族正会員を含む、以下同じ)に配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2023年7月号に掲載し、2022年度事業報告・収支決算、2023年度事業計画・収支予算案、他、全議案が関係法令の賛成数に達していたので、議事詳報を割愛します。

[理事会に関する事項]

- (1) 第1回理事会（定款第38条決議の省略） 2023年4月30日(日)～同5月7日(日)
- ・出席役員 理事10名「同意書」提出、監事2名全員「確認書」提出
 - ・議事録作成者：河村理事長
 - ・第3号議案で理事の追加、委員会組織の人員選任などが決議された。
 - ・議事録を全役員に配布した。主要議案が、会員総会議案「2022年度事業報告・財務諸表等」に絞られていたため、議事詳細を割愛します。
- (2) 第2回理事会 2023年5月28日(日)10:30～16:30（途中昼食休憩と定時会員総会開催のため、12時～15時迄中断） 於：江東区文化センター
- ・出席役員 理事8名（理事総数10名）、監事1名（監事総数2名）
 - ・議長：河村理事長
 - ・書記：河村理事長、議事録作成者：河村理事長、議事録署名：河村理事長、監事1名
 - ・第1号議案で、連珠社役員体制、委員会体制について確認した。段位審査委員会については事務局の中の作業に組み入れ、委員会としては解消した。
 - ・第5号議案で、昇段規定改定について了承された。
 - ・第6号議案で、A級リーグの会場変更について説明があり、昨年と同じ持ち時間、運営とするということが確認された。
 - ・第7号議案で世界戦へのタラグチ10導入について議論され、RIF中央会議において決議には投票せず、RIFの決定に従う（拒否権は行使しない）ということが決定された。
 - ・第9号議案で、連珠普及のための方策提案の検討を行った。
 - ・議事録を全役員（理事9名・監事1名）、に後日配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2023年7月号に掲載しているため、議事詳細を割愛します。
- (3) 第3回理事会 2023年10月29日(日)13:15～15:00 於：江東区文化センター
- ・出席役員 理事8名（理事総数9名うち3名はリモート出席）、監事1名（監事総数1名）
 - ・議長：河村理事長
 - ・書記：河村理事長、議事録作成者：河村理事長、議事録署名：河村理事長、監事1名
 - ・第1号議案で来期のA級リーグの開催場所・開催時期が検討された。
 - ・第2号議案で来年の珠王戦について検討を行った
 - ・第4号議案で、連珠普及のための方策提案の検討を行った。
 - ・議事録を全役員（理事9名・監事1名）、に後日配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2024年4月号に掲載しているため、議事詳細を割愛します。
- (4) 第4回理事会（定款第38条決議の省略） 2024年2月13日(火)～同2月19日(月)
- ・出席役員 理事9名全員「同意書」提出、監事1名全員「確認書」提出
 - ・議事録作成者：河村理事長
 - ・議事録を全役員（理事9名・監事1名）に配布した。前年度とほぼ同内容の2024年度事業計画・収支予算案他の議事決議情報を日本連珠社ホームページに掲載するため、議事詳細を割愛します。

[委員会活動報告に関する事項]

- (1) 総務委員会
- ・各段位免状発行、五目クエスト実績による級位認定書の発行を行った。
 - ・第八世永世名人推戴状を作成し、四月に長谷川九段に渡した。
 - ・会員名簿管理、機関誌送付先管理、入会・退会者管理を行った。
 - ・盤罫紙発送手配を行った。
 - ・総会案内・会員名簿・会員証発送、昇入段者・新規会員の発表を行った。
 - ・第61期名人允可状発行を行った。

公益社団法人日本連珠社
2023年度事業報告

- ・尼崎市に対して減免申請を行い、国・県・市に対し納税証明書の取り寄せを行った。
- ・内閣府への各種報告、活動計画提出資料の登録を行った。
- ・寄付入金者の発表と領収書の送付を行った。
- ・ホームページからの問い合わせの対応を行った。
- ・ゴムマット盤の販売・送付を行った。
- ・檀紙免状用桐箱の作成を行った。
- ・新総裁用免状印章の作成を行った。
- ・在庫書籍の送付を行った。
- ・直近5年度の〔段位別昇入段者数の推移〕については下表の通りとなっている。

	永世 名人	九段	八段	七段	六段	五段	四段	三段	二段	初段	合計
2023年度	1	3	0	0	4	4	2	1	3	5	22
2022年度		2	0	1	3	3	5	5	3	12	34
2021年度		1	0	1	3	2	0	4	8	14	33
2020年度		0	0	0	0	1	3	1	5	10	20
2019年度	1	0	1	1	1	2	1	2	2	7	18

(2) 普及推進委員会

(1) 連珠会・級位者大会活動

- ①東京の拠点として東京連珠会を毎月実施した。2024年3月で266回を数える。
- ②各地区で連珠公認指導員を中心にして支部や会員が独自に、女流棋士育成目的のペア戦、ミニ大会や対抗戦等を企画し実施した。
- ③スポンサー大会として「わくわく連珠大会(2023/8/13)」「五目クエストオフライン大会(2023/12/17)」「五目クエストオフライン大会 in 京都(2023/6/11)」を開催した。

(2) 公益活動(学校、地域)

- ①小学校の土曜教室、クラブ活動、夏休み体験会、放課後教室で連珠教室、競技会を開催し普及推進につなげた。
- ②市役所・教育委員会と連携したNPO法人等からの委託で連珠体験会を実施した。(江東区、八王子市)
- ③不登校児童のイベントに「にゃんこならべ」体験を出展した(浜松連珠会)
- ④地域イベント(自治体、自治会)に連珠・「にゃんこならべ」体験会を出展した。

(3) 他競技とのコラボレーション

- ①桑名囲碁将棋サロン庵、将棋の森、和歌山市さしどき、囲碁将棋喫茶樹林など、囲碁将棋サロン、ボードゲームカフェなどを訪問し指導対局などを通じて宣伝を行い、知的文化の向上に寄与貢献した。
- ②他競技の愛好家との交流を積極的に行ない、シモキタ名人戦をはじめとする各種イベントへ出展し、普及推進につなげた。

(4) 情報発信(HP、SNS、書籍)

- ①詰連珠ドリルを10冊(初心者編、入門編、初級編、中級編、上級編各2冊)を発行し、連珠社HPに専用ページを設けPRした。(サンプルはダウンロード可)
- ②SNS上で詰め連珠他の情報発信を行い、「連珠」の認知度を上げた。
- ③普及活動を連珠世界誌、連珠社HPで報告した。
- ④各支部の例会に利用している公民館にパンフレット、連珠会案内を置き普及に努めた。
- ⑤公共施設に連珠関連資料(開催案内他)を置き普及に努めた。
- ⑥連珠のノボリを作成し、PRに活用した。
- ⑦普及推進委員会公式Xアカウントを作成し情報発信した。
- ⑧連珠会開催を市広報、ミニコミ誌に掲載した。

公益社団法人日本連珠社 2023年度事業報告

- (5) 委員会活動
- ①普及推進委員会オンライン会議を開催した。(2023/5/6、2024/3/20)
 - ②普及推進委員メールにて普及活動に関する情報交換を行った。(2023年度：6回)
 - ③普及推進委員会で普及ツールを管理し必要に応じて普及推進委員に提供した。
- (3) 財務委員会
- ・日々の入出金を管理すると共に、収支決算書及び財務諸表を作成した。一方、より緻密な財務管理のため、2024年度予算(案)も過去のデータ分析から現実的な予算編成を行なった。
 - ・収支状況を常に把握し、遅滞なく事業活動を推進させることができた。
 - ・各委員会活動の精算や理事会、総会、名人戦の精算を遅滞なく行った。
- (4) 広報委員会
- ・有志の協力を得て、一般向けに第61期名人戦五番勝負・A級リーグの中継を行なった。
 - ・名人戦等の開催にあたり、マスコミ、他競技、桑名七盤勝負などの関係者と連絡を取り、取材対応、広報活動を行なった。
 - ・SNSへの情報提供を行なった。
 - ・「シモキタ名人戦」「徳島城博物館子ども歴史講座」をはじめとする各種イベントへ出展した。
- (5) 国際委員会
- ・RIF会長のエストニアのミルメ氏を中心に、Webを用いて複数回打合せを実施し、連珠の諸問題について議論した。
 - ・RIFの中央委員会において五珠交替打ちに開局規定を変更することに関し、日本としては投票を棄権したが拒否権を行使せず、世界戦の開局規定変更に従うことにした。
- (6) 機関誌編集委員会
- ・機関誌「連珠世界」の定期発行を守り、814号から825号まで遅滞なく発行した。
 - ・事務局と連携し、総会・理事会情報、連珠普及活動情報などを掲載し、公益事業目的である機関誌としての役割を果たした。
 - ・一般者から【公益事業活動】として理解してもらいやすい、女性や老人福祉施設や少年・児童たちへの連珠指導ボランティア記事を掲載した。
- (7) メディア委員会
- ・SNS等の社会のネット利用環境の変化に応じたホームページのあり方を検討し、リニューアルされたホームページの開発、発展を進めた。
 - ・棋戦やイベントの予定や結果情報を各地の協力員と協力のもと提供をした。
 - ・名人戦や世界選手権など大きな棋戦の際にはトップページにバナーを設置し周知を図った。
 - ・普及推進委員会と普及活動におけるホームページのあり方を検討した。
 - ・これらの作業とともに、連珠社組織内のメーリングリストやメールアドレスの整理・管理を行なった。
- (8) 珠規審議委員会
- ・四珠交替打ちの実施状況を確認し、主要国際大会が五珠交替打ちに移行する方向性となったことへの対応、それに伴う国内棋戦の方向性を理事会に提案した。
 - ・日々のメールやSNSでの連絡において、各国の棋士と意見交換を行なった。
- (9) 名人戦運営委員会
- ・第61期名人戦は、挑戦者決定リーグ戦(通称：A級リーグ)を無事9月に開催できた。会場は今期から新たに国民生活センター相模原研修所にて開催した。公共施設を利用することにより、トータルのコストを削減することができた。結果は岡部九段が15年ぶりに優勝し、神谷名人への挑戦権を得た。棋譜はインターネットを通じて速報され、一部解説動画も配信した。
 - ・第61期名人戦挑戦手合いは、A級リーグ優勝の岡部寛九段と神谷俊介名人との間で10~11月に行われ、神谷名人が3勝0敗の成績で名人を防衛した。
- (10) 記録委員会
- ・連珠国際連盟ホームページへの公式戦棋譜登録を行なった。登録にあたっては、メディア委員

公益社団法人日本連珠社 2023年度事業報告

会と連携し、各地区から有志の登録者を選出した。

- ・世界選手権の再開に伴い、世界ランキングによる出場権の情報提供を行なった。

(11) 詰連珠通信戦委員会

- ・2022年に発表された全ての詰連珠関連の創作物を対象とした、第十七回詰め連珠大賞の選考を行った。大賞は該当なし、作品賞は中村茂氏作「七不思議の湯」、星月たま氏作「nowhere」（ともに22年4月）となり、作品の図を彫り込んだ盾を贈呈した。また、特技賞として東海九朗氏の図案をもとに長谷川一人氏が創作した「オリンピックアイコン連作四追い」（珠友350・353号）を選定した。
- ・第48回四追い作品コンクール、第44回限珠案コンクールを実施した。
- ・特別昇入段テストを実施、山田英治初段が合格した。
- ・月例詰め連珠、天狗道場をつつがなく実施した。

(12) 特別表彰制度

- ・2023年度は、特別表彰は行わなかった。